

ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第33号

Contents

- P1 ・当院の新型コロナウイルス(COVID-19)感染の現状と体制整備
- P3 ・特定行為研修の経過報告
- P4 ・ひぜん☆いきいき脳活クラブ
- P5 ・職員表彰
- P7 ・令和3年度スポーツ大会を実施して
- P8 ・感染対策を考慮した飲食スペースを開設しました
- P8 ・おすすめの一品

2021. 11

当院の新型コロナウイルス(COVID-19)感染の現状と体制整備

～ 精神科COVID-19感染対策 温故知新 ～

感染対策室 感染管理特定認定看護師 副看護師長 富田 泉

世界では新型コロナウイルスの流行が未だ収束しない中、日本国内においても精神科患者の集団発生やクラスターが多発しています。なぜ精神科ではCOVID-19感染対策コントロールが困難なのか事例を振り返り、次の第6波に備えるために当院の体制整備をご紹介します。

今回当院では、「第2回 新型コロナウイルス(COVID-19)感染対策研修会」を開催し、院内の発生事例、COVID-19受け入れ病棟での問題点や工夫した内容、他施設のクラスター対応、県外施設への派遣要請について、佐賀県内の病院、クリニックに所属する精神科関係の医療従事者を対象に実際に経験した事例を報告致しました。その内容をご紹介します。

事例紹介

図1で示すように、大きな感染の波が当院にも市中と同様に押し寄せています。新型コロナウイルス専用病棟では、認知症や発達障害を伴う軽症から中等症患者を受け入れています。

- 感染症病棟でのハード面、ソフト面、職員教育に初めて取り組んだのは、第3波の認知症の患者さんでした。さらに、医療観察法病棟での発生もあり、夜間の発生、医療観察法の問題点、職員のメンタルサポートについて対策を見直す事例でした。この事例の経験から、祝日や夜間発生での取り組みを見直す機会となりました。
- 第4波では、重症心身障害児病棟での集団発生事例にともない、無症状、行動制限に協力を得られない患者の割合が高い場合、1名発生した時点で、クラスターを念頭に置く、病棟単位での籠城感染対策を検討した事例です。また栄養科での発生では、中央部門で発生した場合、全病棟に影響を与えてしまう事例を経験しました。
- 第5波では、職員及び入院患者のワクチン接種率を8割台に上げ、組織整備、PCR検査体制拡充・DPAT連携・組織構築の見直しを行ったことで院内発生はない事例でした。

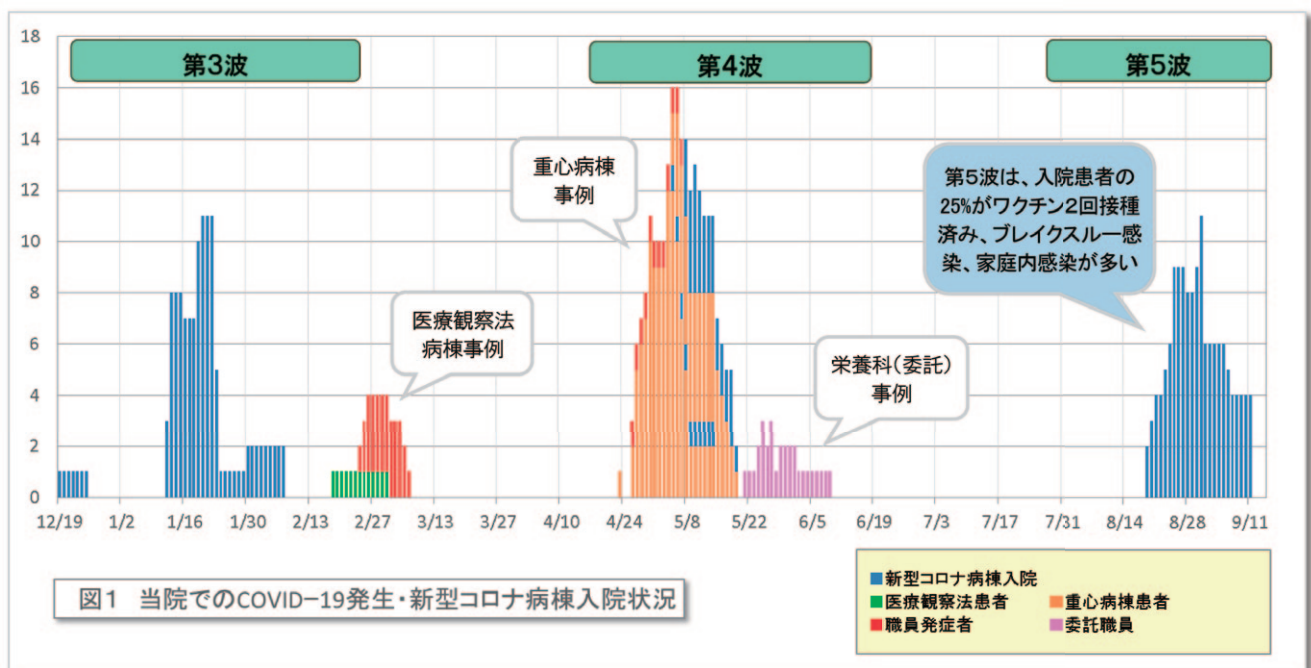
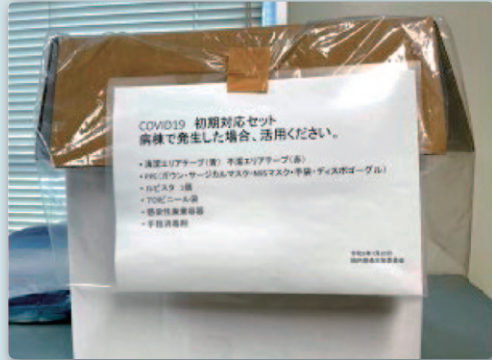


図1 当院でのCOVID-19発生・新型コロナ病棟入院状況

その他工夫した点では、各病棟の構造図面を活用し、初動時の病室取り決め、ゾーニングのマップ化と初動時に必要な物品をセットし準備する取り組みを行いました。沖縄県への大規模クラスター派遣介入では、新型コロナ受け入れ病棟でトレーニングを受けた職員が派遣要請に対応し、沖縄県で経験した精神科施設の集団発生、死亡者の対応など困難な場面に直面しましたが、た。このような様々な経験をもとに問題点や工夫、出来ることについて情報提供しました。

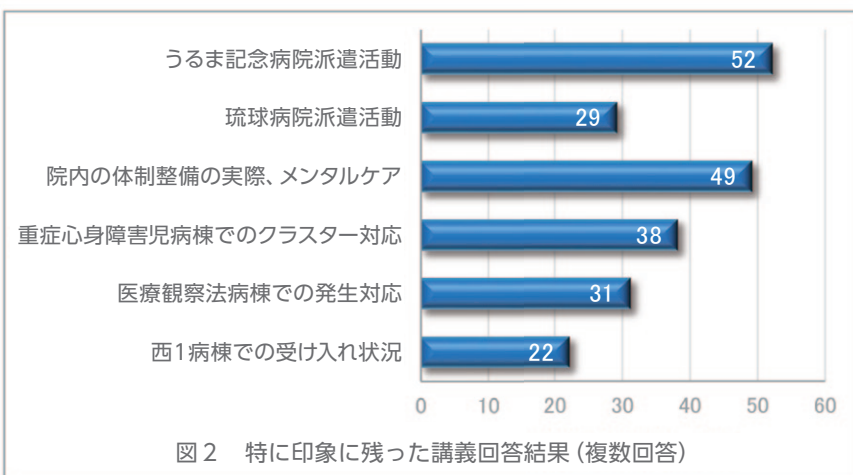
病棟発生時の

● 初期対応セットの準備



休日、夜間に感染または疑い症例が判明した場合、活用できるように準備

● エアパーテーション



定員50名に対し81名と多くの参加者から注目度の高い研修でした。

図2にアンケート結果より参加者が印象に残った講義内容です。

最後に・・・

COVID-19第6波に向けた対策準備

過去のCOVID-19発生事例を振り返り感染対策を見直し、問題点の共有、地域精神施設への情報提供を行う事が県内精神科施設での感染対策の質を上げる取り組みになると考えます。

第6波について、職員・患者ともにワクチン抗体価の低下が予測されるため、ブレイクスルー感染増加や家庭内での感染拡大も懸念されます。

精神科では、職員の持ち込みによる感染経路が多くを占めますが、遮断する対策として「家庭で出来るCOVID-19感染対策」の教育動画を作成し、職員全員へ視聴を提示しました。このように感染流行が下火の時点でこそ出来る準備や个人防护具着脱の再教育、内服薬を含めた治療薬対策など第6波に向けた戦略が必要です。

状況が変化する度に我々も新しい知見を取り入れ、柔軟に感染対策を検討し第6波に備える。この研修で、共有できた経験を次の第6波に活用していきたいと考えます。

特定行為研修の経過報告

精神看護専門看護師（特定行為研修担当）
副看護師長 西川 清子

今年度から開講した「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」の特定行為研修は、早くも6カ月経過しました。次年度の募集は、令和4年1月以降に開始される予定ですので、研修の経過をご紹介します。

精神科に勤務する看護師は身体疾患や身体症状の経験が乏しいことから、フィジカルアセスメントを苦手としています。当院の研修では、特定行為のみでなく精神科看護師に求められる『身体症状をまず除外して精神症状を考えることができる看護師』についても視野に入れて、研修を組み立てております。



eラーニングによる自己学習後に集合で演習を行います。
共通科目は、救急や呼吸管理等の特定行為研修と同じで難易度が高い内容です。



フィジカルアセスメント演習

eラーニングで設定された症例に沿って演習を重ねました。
評価結果より、補講も企画しアセスメント能力を向上させました。

共通科目では規程の講義・演習で強化が必要となる科目について追加課題を課すことや、フィジカルアセスメントでは全身の身体所見をとることの重要性について内科医を主体として補習を行いました。また、区分別科目では実際に当院で経験した事例データをもとにして、身体症状と精神症状のどちらが優先する状態であるのかオリジナルのペーパーシミュレーションを行うこと、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識を確認するテストを実施しました。当初の学習時間を超えたものとなりましたが、受講生は演習を通して自分の課題を認識することが出来てきました。

11月より、区分別実習としてそれぞれの所属施設での臨地実習がはじまりました。

現在、特定行為研修修了者となるため、厚生労働省の定例集を参考に自分で作成した手順書をもとに「坑けいれん剤の臨時の投与」「坑精神病薬の臨時の投与」「坑不安薬の臨時の投与」のそれぞれ5症例（計15症例）とることに取り組んでおります。

ひぜん☆

いきいき脳活クラブのご紹介



精神保健福祉士
辻本 泰子

認知症疾患医療センター（地域型）として取り組んでいる活動の一つに、「ひぜん☆いきいき脳活クラブ」があります。“できるだけ長く自分らしく生きる”をモットーに集団認知リハビリテーションを開催しております。

今年で7年目を迎える「ひぜん☆いきいき脳活クラブ」では軽度認知障害（MCI）の方を対象に、平均して20名、60代～90代と幅広い年齢層の方が参加していただいております。

今回はプログラムの流れを簡単ですがご紹介させていただきます。



<始めの会>では参加日の年月日の確認に始まり、過去にこの日は何の出来事があったのか、何の記念日かなど話題にします。質問に答えていただいたり書き込んだり簡単な作業を行いながら、参加者にとってはこれからプログラムが始まるという準備の時間になります。

<前半プログラム>はデュアルタスクエクササイズといって2つのことを同時に行うエクササイズを行います。数を数えながら同時に手や足踏みするなど体を動かし、簡単な動きから徐々に複雑になっていきます。

導くスタッフもあえて焦るように声かけしたり、うまく出来たときや熱心に取り組めた時はほめて気分をのせてくれたりと、ユーモアたっぷりに進行するので、うまくできてもできなくても皆さん笑顔が絶えません。

<後半プログラム>は筋力トレーニング、日常生活での工夫、認知症予防の食生活講座、ヨガ、リズム体操、四季を感じる行事など多種多様なプログラムを週代わりで開催しています。これは「行動」「刺激」「感情」「認知機能」とそれぞれに焦点をあてたプログラムを提供することで、参加者のプラス思考を引き出し、また達成感を得ていただくことを目的としています。

<帰りの会>では、振り返りの時間でもあり、次回開始日の確認、プログラムの話題をさせていただきます。

活動には、医師、看護師、作業療法士、心理療法士、理学療法士、栄養士、外部委託講師も含めて、多職種がそれぞれの専門を活かし職域を超えたアプローチを試みております。

毎週火曜日午後より当センター旧看護学校で開催しています。ご関心のある方はお気軽にお問い合わせしていただければと思います。

私たちスタッフも楽しみながら、参加していただく方々が“長く自分らしく生きる”ことを願って毎週火曜日お待ちしております。



職員表彰



職員表彰についてはこれまで、毎年1回年度末に実施していましたが、令和3年度より上半期・下半期の2回実施することになりました。

タイムリーに推薦することが可能になり、多数の職員の表彰が出来るというメリットからです。今回上半期（団体表彰4組、個人表彰1名）の表彰を実施しました。



職員表彰(最優秀賞)を受賞して

沖縄派遣チーム

今回、「沖縄派遣チーム」として、最優秀賞を頂きありがとうございます。突然の派遣要請で戸惑いの中、大規模クラスター発生のうるま記念病院での活動を開始し、短期間でたくさんの方が亡くなるという想像をはるかに超える状況でした。「少しでも患者が楽になれば」「これ以上の犠牲者を出したくない」という思いで、全国からの支援者と共に肥前の代表として活動を行えたことは看護人生の中で貴重な経験となりました。また派遣活動の機会を与えてくれた上司、勤務交代や温かく迎えてくれた同僚や家族には大変感謝しています。



職員表彰(優秀賞)を受賞して

この度は、優秀賞に選んでいただき大変恐縮しております。

5月に発生した給食委託職員からの COVID-19 の際には、患者様はもちろんのこと看護部他たくさんのスタッフにご迷惑おかけしたにもかかわらず、ご協力頂き大変感謝いたします。患者様へ食事を提供することは、栄養管理室としての義務でありますので、衛生管理はもちろんですが、感染管理に関してもより慎重に対応すべきであると考えております。今回の事例を踏まえ、今後より一層気を引き締めて業務を行っていきたいと思います。

栄養管理室



職員表彰(特別賞)を受賞して

この度は、職員表彰を受け WG の活動を評価していただき光栄に思います。新型コロナワクチン接種にあたり、多職種計 13 名で新型コロナワクチン WG を結成しました。6月に接種を開始し2ヶ月間で入院患者 354 名、外来患者 206 名の接種を実施しました。急なキャンセルもありましたが、ワクチンを無駄にすることなく調整できました。協力をありがとうございました。

新型コロナワクチン WG 一同



職員表彰(奨励賞)を受賞して

令和2年度職員表彰において奨励賞いただき、光栄に思います。昨年度に比べ患者数、診療点数の増加を評価していただきました。患者数増加は、外来患者にコロナワクチン接種を実施したことが影響したと考えます。ワクチン接種では、安全にスムーズに接種できるよう、工夫し協力して実施しました。これからも病院経営に貢献できるよう努めていきたいと思ひます。ありがとうございました。

外来スタッフ一同



職員表彰(奨励賞)を受賞して

非常勤職員にも表彰があるのだと、驚きと光栄です。以前、ボイラー運転業務に従事していたことがあり、今回その技士資格が役立つことになって大変良かったと思います。有難うございました。

また、本来の電気業務においても患者様や職員さんの快適な環境維持のため日々努めておりますので、今度ともよろしくお願ひします。

電気士 舘林 玄昌



令和3年度 スポーツ大会を実施して

療育指導室 石丸 阿佑美

10月26日（火）～10月28日（水）にかけて重症心身障害病棟等でスポーツ大会が開催されました。例年、南3・4病棟では合同でご家族もお呼びしていますが、感染症流行に伴い、今年度は各病棟・利用者様と病院スタッフ、学校の先生方のみでの開催となりました。また、昨年度は開催できなかったため約1年ぶりのスポーツ大会となりました。

例年とは異なる開催様式でしたが、各病棟で創意工夫したスポーツ大会となりました。競技の中には10月のハロウィンが近いということで、仮装を取り入れたリレーなどがありました。走者である利用者様それぞれが選択した魔女の帽子やマント、衣装といった仮装用の小物を、次々と職員が身に付けていくと、最後には個性豊かなキャラクターやお馴染みのキャラクターが出来上がっており、盛り上がりを見せました。

その他にも球拾いやボッチャなど様々な競技を職員と共に一生懸命取り組まれました。競技中には、大きな声や拍手で応援する様子が見受けられ、参加者全員が一体となっていました。

来年度は、ご家族にもご参加いただければと思います。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



OPEN

感染対策を考慮した飲食スペースを開設しました

外来窓際に面した場所にスタバ風の
飲食スペースを設けました。
中庭の景色や花をみながらちょっと一息!!
外来患者さんの利用も増え、
喜ばれています。



窓越しに季節の花を観賞しながら
食事ができます。



それぞれが窓側を向き、
パーティションで仕切られているので、
感染対策しながら食事ができます。



おすすめの一品

栄養管理室長 上野 佳代子

手軽に鹿児島の味“かるかん(軽羹)”を作ってみませんか?

皆さん、鹿児島の郷土菓子“かるかん”をご存知ですか?

かるかんは、1700年ごろ薩摩藩で誕生した蒸し菓子です。主な材料は米粉や山芋、砂糖とシンプルで手に入りやすいため、
鹿児島では手作りされる家庭も多いようです。

今回は、鹿児島出身の主任栄養士直伝のレシピを紹介します。

とっても簡単なのに、びっくりするくらい美味しいので、是非作ってみてください!



材料 15×12 cm バット 1枚分

上新粉	100g
砂糖	100g
山芋*	100g
水	80g
卵白	1個分
こしあん	70g

*山芋は皮を剥いた後の分量です

作り方

- ① 上新粉と砂糖はふるってボウルに入れておく。
- ② 皮を剥いた山芋と水をなめらかになるまでミキサーにかける。
- ③ 卵白を角が立つまで泡立てる。
- ④ ①に②を加えて混ぜ合わせ、その後③も加えて混ぜる。
- ⑤ バットにオーブンシートを敷き、④の半分を流し入れ、その上にこしあんを小さくちぎって生地の上にまんべんなく乗せる。さらに残りの④を上から流し、平らにならす。
- ⑥ 蒸し器で20分蒸す。

今回は、スーパーで手に入りやすい上新粉を使用しましたが、本場のかるかんは、上新粉よりキメが粗い「かるかん粉」を使用します。かるかん粉を使用すると、キメが粗い生地になり、上新粉を使用すると、きめが細かい生地に仕上がります。また、今回はこしあんを入れましたが、あん無しでシンプルに生地の味を味わうのもお勧めです。

患者の権利

1. 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
2. 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利
3. 治療法を自由に選択し、決定する権利
4. プライバシーが守られる権利
5. 常に人としての尊厳を守られる権利
6. 医療上の苦情を申し立てる権利
7. 継続して一貫した医療を受ける権利
8. QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利



患者の義務

1. 情報を提供する義務
2. 状況を確認する義務
3. 診療に協力する義務
4. 医療費を支払う義務



◆編集後記◆

温暖化の影響で朝晩の寒暖差が大きく、今年の秋はあっという間に過ぎいよいよ冬の到来です。

新型コロナウイルスワクチンの追加接種や新たな変異株の発生など、まだまだ With コロナの生活は続きますが、マスク・手洗い・三密回避の基本的な感染対策を続け、来年こそは院内・外での色々なイベントが開催出来ることを願います。



編集部

令和3年11月発行

編集・発行：広報委員会 委員長：橋本（喜） 副委員長：村川、檜木

委員：森松、黒瀬、相島、竹藤、武富、岡田、糸永、吉澤、石丸、渡辺、山下、下川

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

TEL 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864

ホームページ <https://hizen.hosp.go.jp/>

